

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年8月8日
【四半期会計期間】	第75期第1四半期(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)
【会社名】	双葉電子工業株式会社
【英訳名】	FUTABA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高橋 和伸
【本店の所在の場所】	千葉県茂原市大芝629番地
【電話番号】	0475(24)1111(大代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 業務管理本部長 中村 正行
【最寄りの連絡場所】	千葉県茂原市大芝629番地
【電話番号】	0475(24)1111(大代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 業務管理本部長 中村 正行
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第74期 第1四半期 連結累計期間	第75期 第1四半期 連結累計期間	第74期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	16,103	16,901	64,157
経常損失( ) (百万円)	986	224	321
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純損失( ) (百万円)	1,362	355	2,371
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	7,050	216	531
純資産額 (百万円)	120,698	124,233	127,677
総資産額 (百万円)	136,934	142,368	144,576
1株当たり四半期(当期)純損失 金額( ) (円)	32.00	8.37	55.86
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	81.9	80.8	81.7

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれていません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、第1四半期連結累計期間において双葉電子科技開発(北京)有限公司を連結の範囲に含めています。

また、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しています。詳細は、「第4 経理の状況 1四半期財務諸表 注記事項(セグメント情報)」に記載のとおりです。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における国内経済は、企業業績や雇用・所得環境の改善に支えられ、緩やかな回復基調が続いています。

一方、世界経済は、米国では個人消費や設備投資の伸びに支えられた景気回復が継続しており、中国も財政政策の効果による景気の持ち直しが続いています。北朝鮮・中東情勢などの地政学的リスクや米国や欧州の政治動向などについては、留意すべき状況が続いています。

このような状況のなか、当社グループは、平成29年5月に2017年度から2019年度までの3年間を対象とする中期経営計画「Futaba Innovation Plan 2020」を公表し、この期間を次代の発展の基礎固めと位置付けました。さらに、会社組織や執行役員制度を大幅に見直し、その達成に向けて強気に推進していきます。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は169億1百万円(前年同期比5.0%増)となりました。このうち海外売上高は107億8千万円(前年同期比6.2%増)となり、国内売上高は61億2千1百万円(前年同期比2.8%増)となりました。

収益面では、営業損益は4億8千1百万円の損失(前年同期は営業損失2億4千9百万円)、経常損益は2億2千4百万円の損失(前年同期は経常損失9億8千6百万円)となり、親会社株主に帰属する四半期純損益は、3億5千5百万円の損失(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失13億6千2百万円)となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりです。なお、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えています。

(単位：百万円)

セグメント名称	前第1四半期連結累計期間 外部顧客への売上高	当第1四半期連結累計期間 外部顧客への売上高	増減率 (%)
電子デバイス関連	8,388	8,921	6.4
生産器材	7,715	7,980	3.4
合計	16,103	16,901	5.0

#### 電子デバイス関連

(主な製品：蛍光表示管、有機ELディスプレイ、タッチセンサー、複合モジュール、産業用ラジコン機器、ホビー用ラジコン機器等)

##### < 蛍光表示管の売上高の状況 >

自動車用途や映像用途の需要が減少したことにより、売上は前年同期を下回りました。

##### < 有機ELディスプレイの売上高の状況 >

ウェアラブル製品向けなどの通信機用途が伸びたものの、自動車向けが減少したことから、売上は前年同期をやや下回りました。

##### < タッチセンサーの売上高の状況 >

主力の車載用途が計画を上回るペースで拡大し、売上は前年同期を大幅に上回りました。

##### < 複合モジュールの売上高の状況 >

計測器用途は伸びたものの、主力のPOS用途が低迷したことから、売上は前年同期を下回りました。

< 産業用ラジコン機器の売上高の状況 >

主な用途であるトラッククレーン向けや農業関連向けが堅調に推移したことから、売上は前年同期を上回りました。

< ホビー用ラジコン機器の売上高の状況 >

ホビー用ラジコン機器は、前期に引き続き空物が低迷しましたが、ロボット用機能部品は、大手分冊百科向けのコマンド方式サーボの新製品が発売されたことから売上は伸長し、全体の売上は前年同期並みとなりました。

生産器材

(主な製品：プレート製品、金型用器材、成形合理化機器)

< 国内売上高の状況 >

プレートおよび成形合理化機器は前年同期を上回ったものの、プレスおよびモールド金型用器材が伸び悩んだことから、売上は前年同期並みとなりました。

< 海外売上高の状況 >

主力の韓国市場において、自動車向けは堅調でしたが、スマートフォン向けが依然として低迷していることから、売上は前年同期並みとなりました。

( 2 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

( 3 ) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、5億1千9百万円です。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	196,099,900
計	196,099,900

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年8月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	43,886,739	43,886,739	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	43,886,739	43,886,739	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日	-	43,886,739	-	22,558	-	21,594

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしています。

【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,466,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 42,382,500	423,825	-
単元未満株式	普通株式 37,939	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	43,886,739	-	-
総株主の議決権	-	423,825	-

【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
双葉電子工業株式会社	千葉県茂原市大芝629番地	1,466,300	-	1,466,300	3.34
計	-	1,466,300	-	1,466,300	3.34

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しています。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）および第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けています。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	56,865	53,018
受取手形及び売掛金	17,358	17,972
有価証券	123	-
商品及び製品	3,815	3,984
仕掛品	2,642	2,617
原材料及び貯蔵品	6,683	7,010
その他	1,256	1,326
貸倒引当金	394	460
流動資産合計	88,352	85,470
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,179	13,069
機械装置及び運搬具(純額)	8,862	9,065
工具、器具及び備品(純額)	744	798
土地	17,433	17,328
リース資産(純額)	100	91
建設仮勘定	1,787	1,462
有形固定資産合計	42,107	41,816
無形固定資産		
984		967
投資その他の資産		
投資有価証券	11,808	12,653
その他	1,615	1,747
貸倒引当金	291	287
投資その他の資産合計	13,132	14,113
固定資産合計	56,224	56,897
資産合計	144,576	142,368



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,968	4,446
電子記録債務	1,558	1,776
未払費用	3,424	3,197
未払法人税等	509	355
賞与引当金	874	748
その他	1,745	2,675
流動負債合計	12,081	13,199
固定負債		
繰延税金負債	1,086	1,258
役員退職慰労引当金	116	120
退職給付に係る負債	3,380	3,292
その他	233	264
固定負債合計	4,816	4,935
負債合計	16,898	18,134
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	22,558	22,558
資本剰余金	21,594	21,594
利益剰余金	78,526	75,105
自己株式	2,733	2,733
株主資本合計	119,945	116,525
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,654	2,050
為替換算調整勘定	2,414	2,663
退職給付に係る調整累計額	1,011	815
その他の包括利益累計額合計	1,771	1,427
非支配株主持分	9,503	9,136
純資産合計	127,677	124,233
負債純資産合計	144,576	142,368

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

( 単位：百万円 )

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	16,103	16,901
売上原価	12,966	13,784
売上総利益	3,137	3,117
販売費及び一般管理費	3,386	3,598
営業損失( )	249	481
営業外収益		
受取利息	56	67
受取配当金	104	96
為替差益	-	58
その他	51	75
営業外収益合計	213	297
営業外費用		
為替差損	952	-
固定資産解体撤去費用	0	9
その他	2	32
営業外費用合計	951	41
経常損失( )	986	224
特別利益		
固定資産売却益	4	13
特別利益合計	4	13
特別損失		
固定資産売却損	8	8
固定資産廃棄損	8	4
投資有価証券評価損	93	-
減損損失	0	-
特別損失合計	110	12
税金等調整前四半期純損失( )	1,091	224
法人税、住民税及び事業税	188	166
法人税等調整額	18	21
法人税等合計	170	144
四半期純損失( )	1,262	368
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	100	13
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	1,362	355

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純損失( )	1,262	368
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	779	388
為替換算調整勘定	5,248	435
退職給付に係る調整額	240	198
その他の包括利益合計	5,787	151
四半期包括利益	7,050	216
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,274	17
非支配株主に係る四半期包括利益	775	199

【注記事項】

(連結の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、双葉電子科技開発(北京)有限公司は重要性が増したため、新たに連結の範囲に含めています。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
減価償却費	790百万円	822百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	599	14	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	3,139	74	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	電子デバイス 関連	生産器材	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,388	7,715	16,103	-	16,103
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	0	0	0	-
計	8,389	7,715	16,104	0	16,103
セグメント利益又は 損失( )	362	113	248	0	249

(注)1.セグメント利益又は損失( )の調整額 0百万円は、セグメント間取引消去です。

2.セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

当第1四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年6月30日）

1.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	電子デバイス 関連	生産器材	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,921	7,980	16,901	-	16,901
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	0	2	2	-
計	8,923	7,980	16,903	2	16,901
セグメント利益又は 損失( )	564	83	481	-	481

2.報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、技術および営業部門の統合によるシナジー効果や新たな融合商品の創出を行うことを目的とした会社組織の変更に伴い、報告セグメントを従来の「電子部品」、「電子機器」および「生産器材」の3区分から、「電子デバイス関連」、「生産器材」の2区分に変更しています。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき開示しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額および算定上の基礎は以下のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額( )	32円00銭	8円37銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額( ) (百万円)	1,362	355
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純損失金額( )(百万円)	1,362	355
普通株式の期中平均株式数(千株)	42,583	42,420

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8 月 8 日

双葉電子工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 坂本 一郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 隅田 拓也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている双葉電子工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、双葉電子工業株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 . 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しています。

2 . X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。